遠賀堀川の掘さくと治水・水運への影響について

九州共立大学　正　員　長弘　雄次

1．はじめに

遠賀堀川運河は、九州北部を流れる遠賀川の治水と灌漑・物資輸送の水運などの目的から、分水路として福岡初代藩主黒田長政により1621（元和７）に着工されたが、途中一時中断し完成したのは 183年後になる1804（文化元）年である。完成後は遠賀川の治水には殆んど効果がなかったといわれるが、灌漑用水の確保による米の生産増により藩の財政に寄与し、筑豊炭田の開発とともに石炭の輸送に大きく貢献した。しかし石炭産業の衰退と共に役目も終り、下排水路と化したが、著名な土木遺構の保存の気運が高まりその再生が期待されている。当報告は堀川運河の掘さくの経緯と治水・水運への影響についてとりまとめた。

2．堀川運河の掘さく

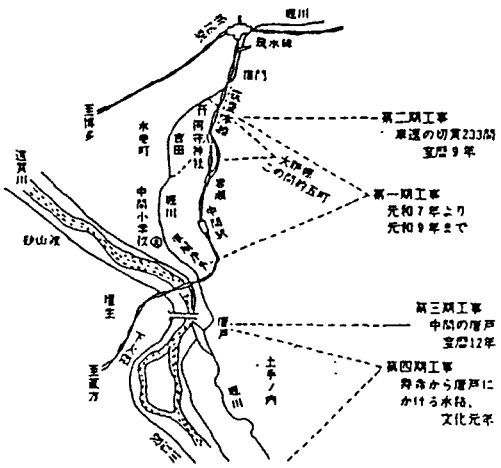
1600（慶長５）年福岡52万石の初代藩主として入部した黒田長政は新田開発のため遠賀川の治水に意を注ぐとともに、その効果をあげるため堀川分水路を計画した。

当運河は北九州市寿命を起点に中間、水巻、折尾を経て洞海湾に至る総延長10.1Km、平均幅員11ｍの人工運河で、付近の地質は第三紀層中の堅硬な砂岩層が賦存し、一部に第四紀層が覆っている。

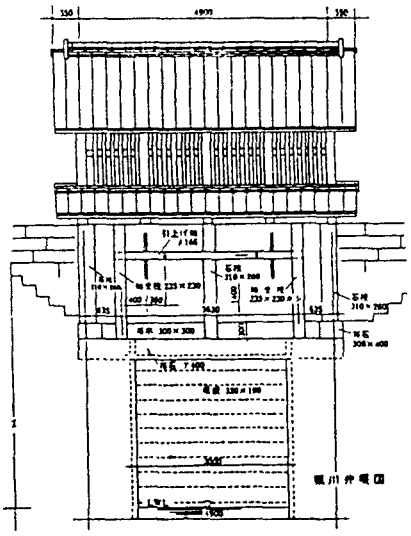
黒田騒動で有名な家老栗山大膳を総司とし、1621（元和７）年に第１期工事が開始されたが、３年後長政の死去により工事が中断し、その後 127年を経て第６代藩主継高によって1750（寛延３）年第２期工事が再開され、車返しの吉田切貫といわれる岩山の掘さく工事を1759（宝暦９）年に完成、洞海湾につなぐ工事も1762（宝暦12）年に完了した。図－１に堀川の位置、掘さく工事の推移を示す。

しかし取入口の不備から工事中の仮通水が巧くゆかず、工事に精通した土木技術者一田久作に命じ、備前国（岡山県、黒田長政の出身地）吉井川倉安の水門を視察させ、その石唐戸を参考にして中間水門を1762（宝暦12）年に完成させた。これを第３期工事としているが、その横断図は図－２のとうりである。

また取入口の流入の改良、内水部の被害防止のため、1804（文化元）年堀川の延長工事、寿命水門建設を第４期工事として着工し、同年に堀川運河の全線工事が完成し、以後灌漑用水の確保、水運による物資輸送に大きく貢献した。



図－１　堀川掘さく工事の推移 [1)]



図－２　中間水門横断図 [1)]

3．堀川運河完成後の治水・水運への影響

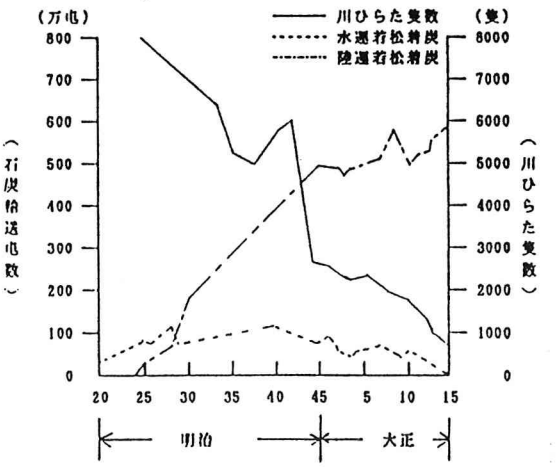
堀川運河完成後は遠賀川の洪水防止のための治水には殆んど役に立たなかったといわれている。これは洪水時は内水部の氾濫防止のため、中間・寿命の両水門を閉鎖するため分水路の役割を果さなっかたことによる。そのため遠賀川の治水工事は福岡藩として長く続けられた。

しかし、平水時における灌漑用水の確保により、新田の開発は促進され、特に堀川沿いの二村、伊佐座村、下二村の1701（元禄14）年の堀川貫通前の石高 198石が、使用後の1834（天保５）年には1528石と 7.7倍に大きく生産高を増加させた。[2)]

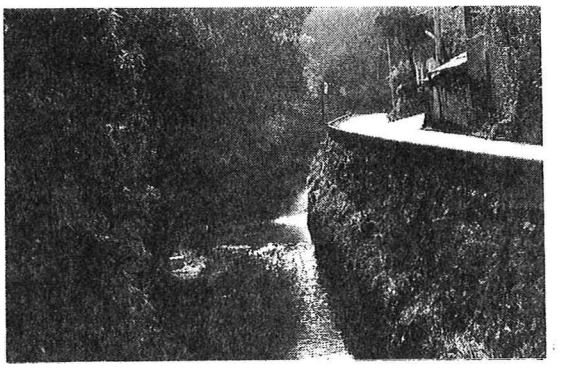
水運については、遠賀川の水運は古くから開かれており、江戸時代は年貢米のほか、櫨実、ろう、菜種子、卵などが、水深の浅い遠賀川では船底の浅い「川ひらた」により輸送されていたが、宝暦年間に石炭が遠賀川流域で発見されると石炭の輸送が増加し、堀川運河が開通後1842（天保13）年では石炭の輸送が総数9647隻の内67％の6490隻となり、爾後石炭輸送が主力となって全盛時の1898（明治31）年には13万隻余を数へ、我が国の近代化に大いに寄与した。[1)2)]

しかし1891（明治24）年に鉄道が若松～直方間に開通し、以後鉄道が延長されるに及び漸次陸運にかわられ、1938（昭和13）年に最後の歴史を閉じた。

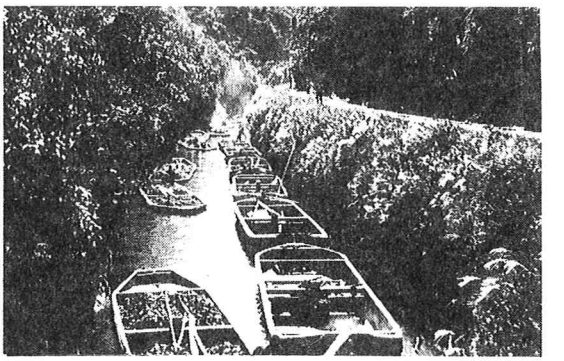
図－３に川ひらたの変遷を示す。また現在も掘さく当時の面影を残している吉田の切貫付近の現況、と同付近の水運の状況を写真－１、写真－２に比較して示す。



図－３ 川ひらたの変遷（直方石炭記念館所蔵）



写真－１　吉田切貫上流を望む
（撮影：長弘,1991.3.24）



写真－２　吉田切貫の水運上流を望む
（1897（明治30）年頃，工藤久氏所蔵）

4．むすび

戦後の石炭産業最盛期には洗炭汚水で荒廃し、生活下排水路として往時の面影はなくなったが、筑豊炭田の使命が終った1975（昭和50）年以降遠賀川の水が清浄化するとともに、近時の環境保全の意識の高まりから護岸改良工事も施工されつつあり、土木遺構保存の気運も活性化し、その再生が期待されているが、下水道の整備や水利権の解決による水量の増加など今後の課題に取りくむことが望まれる。

参考文献

1) 中間市立歴史民俗資料館：堀川の歴史と文化，pp.3-7，1988.11.

2) 林 正登：「遠賀川流域史探訪」，葦書房，pp.131-166，1989.12.1.